

いのち
生命を育む思想の今

— 相模原障害者施設殺傷事件をきっかけに —

《特別講演》 石地 かおる 氏 神経筋疾患ネットワーク

「危険な『排除社会』 - ご自身の経験から考える出生前診断」

《基調講演》 松原 洋子 氏 立命館大学大学院 教授

「優生主義の現在 - 医療技術・科学技術と社会の関係史から」

《パネルディスカッション》



日時：2018年**3月11日**（日）**13:30～16:15**（開場 13:15）

会場：ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）4F 大会議室3

参加費：無料 事前申し込み：不要

私たちは、2006年10月にフォーラムズ「生命（いのち）を育む思想」を開催し、その中の分科会「生まれること、生むこと－優生思想と当事者」では、遺伝疾患である血友病患者の母親とサリドマイド被害者の方に、自身の生きづらさと共に、社会に脈々と流れる病者・障害者を排除する思想について、当事者の視点から問題提起していただきました。

イベント開催から10年、神奈川県立知的障害者福祉施設「津久井やまゆり園」において凄惨な殺傷事件が起きました。この事件で加害者は、人間を一方的に分別し犯行に及び、事件後には障害者を否定する加害者に賛同するような言説までがネット上に広がりました。また医療という文脈においては、出生前診断や医療資源の配分など、合理性や経済性を根拠として命の価値が決められつつあります。

改めて「生命（いのち）を育む思想の今」を考える機会として、本イベントを開催し、加害者の考え方と現代的な優生思想との位置関係を明らかにしたいと思います。

石地氏からは、自らの経験をもとに命の選別につながる「出生前診断」の問題点についてお話しいただき、松原氏からは、誰もが無意識下に持つ優生思想の問題点や、科学技術や医学がもたらす現代的な優生学的問題を整理していただきます。本イベントを通じて、私たちは何を為すべきかを考える機会としたいと思います。

開催概要

2018年3月11日（日）13:30～16:15
（開場 13:15）

ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）
4F 大会議室3

参加無料 事前申し込み不要

《特別講演》

石地 かおる 氏 神経筋疾患ネットワーク

「危険な『排除社会』－ご自身の経験から考える出生前診断」

《基調講演》

松原 洋子 氏 立命館大学大学院 教授

「優生主義の現在－医療技術・科学技術と社会の関係史から」

《パネルディスカッション》

石地かおる氏、松原洋子氏、

大西赤人氏（特定非営利活動法人 ネットワーク医療と人権 理事）

司会進行：本郷正武氏（和歌山県立医科大学 医学部 准教授）

講演者

石地 かおる（いしじ かおる）

1967年12月21日生まれ。兵庫県揖保郡（現：たつの市）出身。一歳半で、脊髄性進行性筋萎縮症と診断される。24時間介助が必要な重度障害者。1986年、姫路市立書写養護学校高等部卒業。卒業後、10年余りの在宅（親元）生活を余儀なくされる。1998年、神戸市で他人介助を入れて自立生活をスタート。現在、自立生活センターリングリング障害者スタッフ、神経筋疾患ネットワーク（出生前診断に反対する当事者団体）運営委員、リメンバー7.26神戸アクション呼び掛け人。

松原 洋子（まつばら ようこ）

1958年東京生まれ。立命館大学大学院先端総合学術研究科教授。1998年お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程修了。博士（学術）。お茶の水女子大学助手（1998年）、立命館大学産業社会学部教授（2002年）を経て、2003年より現職。専攻は科学史・科学技術社会論・生命倫理。主な研究テーマは優生学史、障害者のアクセシビリティ支援。著作に『優生学と人間社会』（共著、講談社現代新書、2000年）、『生命の臨界』（共編著、人文書院、2005年）など。

会場案内

ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）

〒540-0008 大阪市中央区大手前 1-3-49

TEL：06-6910-8500

<http://www.dawncenter.jp>

- ・京阪天満橋駅、地下鉄谷町線天満橋駅①番出入口から東へ約350m
- ・JR東西線大阪城北詰駅②号出入口から西へ約550m
- ・市バス京阪東口からすぐ



【お問い合わせ】 特定非営利活動法人 ネットワーク医療と人権

TEL：06-6364-7677 FAX：06-6364-8099 E-mail：info@mers.jp